

重点国選定の考え方

1. 重点国選定の観点

- 冷蔵・冷凍食品など温度管理が必要な食品の需要増加に伴い、コールドチェーン物流の需要増加が見込まれる ASEAN において、今後 5 年間を通じて我が国関係省庁・機関が連携してコールドチェーン物流を促進する重点国について、次の 3 つの観点から分析し選定する。

(1) コールドチェーン物流に関する市場性

(I) 国レベル

- i) 人口
- ii) 1 人当たり GDP
- iii) 中高所得層の世帯数
- iv) 冷蔵庫・電子レンジの世帯普及率
- v) 冷蔵・冷凍食品の消費額
- vi) モダントレード率
- vii) ハラル需要

(II) 都市レベル

- i) 都市人口
- ii) 1 人当たり GDP

(2) ASEAN 主要都市におけるコールドチェーン物流のビジネス環境

- i) 物流効率化度
- ii) 外資規制・業規制
- iii) 宅配便サービス市場

(3) 我が国との関係

- i) 日本から ASEAN への農林水産物の輸出額
- ii) ASEAN から日本への農林水産物の輸出額

2. ASEAN のコールドチェーン物流の現状

(1) コールドチェーン物流に関する市場性

(I) 国レベル

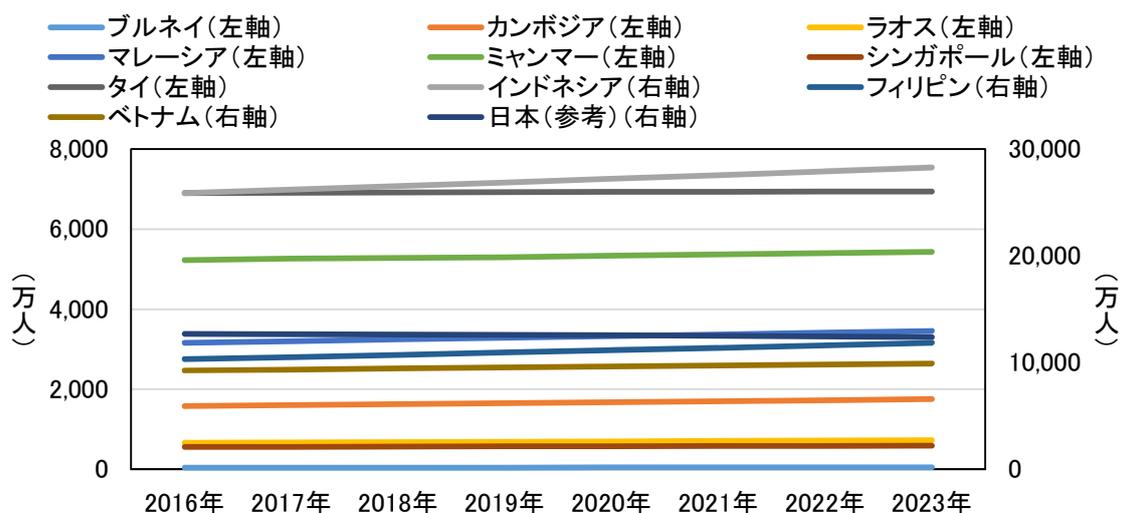
i) 人口

- ASEAN 全体の人口は、2016 年の 6 億 3,590 万人から 2023 年には 6 億 8,974 万人と 8.5%増加し、着実に増える見込みである（図表 1-1）。2016 年において人口規模が大きいインドネシア・フィリピンは、2023 年にかけてそれぞれ 9.2%・14.9%と ASEAN 全体を上回るペースで増加し、ASEAN 域内における存在感は更に高まると考えられる。

（2016 年の ASEAN の人口と 2023 年にかけての増加率）

- －第 1 位：インドネシア（2 億 5,871 万人・9.2%）
- －第 2 位：フィリピン（1 億 324 万人・14.9%）
- －第 3 位：ベトナム（9,269 万人・6.9%）
- －第 4 位：タイ（6,898 万人・0.6%）
- －第 5 位：ミャンマー（5,225 万人・4.0%）
- －第 6 位：マレーシア（3,163 万人・9.3%）
- －第 7 位：カンボジア（1,578 万人・11.0%）
- －第 8 位：ラオス（659 万人・10.5%）
- －第 9 位：シンガポール（561 万人・10.5%）
- －第 10 位：ブルネイ（42 万人・9.0%）

図表 1-1 ASEAN の人口の推移（2016～2023 年）



注：2016 年は実績、2017～2023 年は予測。

資料：「World Economic Outlook Database, April 2018」(IMF)より作成

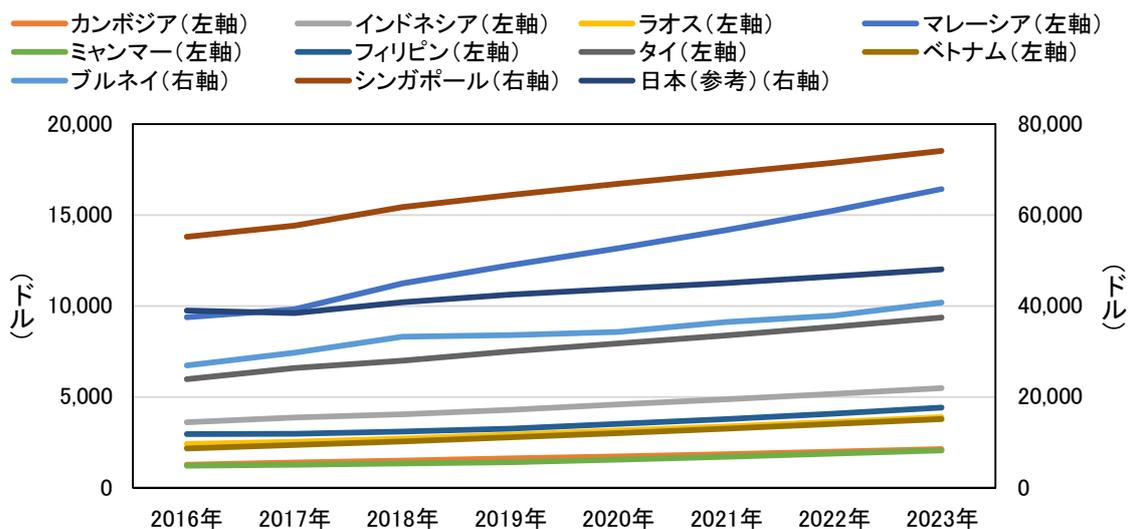
ii) 1人当たり GDP

- ASEAN の経済発展段階は様々であり、世界銀行の定義を参考に、1人当たり GDP が1万ドル（約113万円。1ドル=113円で換算）以上を高所得国、3,000~1万ドル（約34~113万円）を上位中所得国、1,000~3,000ドル（約11~34万円）を下位中所得国、1,000ドル（約11万円）を低所得国とすると、2016年には高所得国は2か国（シンガポール・ブルネイ）、上位中所得国は3か国（マレーシア・タイ・インドネシア）、下位中所得国は5か国（フィリピン・ラオス・ベトナム・カンボジア・ミャンマー）で、低所得国はない（図表1-2）。ASEANは経済成長を続けて、2023年には高所得国にはマレーシアが加わって3か国、上位中所得国にはフィリピン・ラオス・ベトナムが加わって5か国となり、下位中所得国は2か国に減少する見込みである。

（2016年のASEANの1人当たりGDPと2023年にかけての増加率）

- 第1位：シンガポール（55,241ドル（約624万円）・5.4%）
- 第2位：ブルネイ（26,935ドル（約304万円）・9.0%）
- 第3位：マレーシア（9,374ドル（約106万円）・9.3%）
- 第4位：タイ（5,970ドル（約67万円）・0.6%）
- 第5位：インドネシア（3,604ドル（約41万円）・9.2%）
- 第6位：フィリピン（2,953ドル（約33万円）・14.9%）
- 第7位：ラオス（2,417ドル（約27万円）・10.5%）
- 第8位：ベトナム（2,172ドル（約25万円）・6.9%）
- 第9位：カンボジア（1,278ドル（約14万円）・11.0%）
- 第10位：ミャンマー（1,210ドル（約14万円）・4.0%）

図表1-2 ASEANの1人当たりGDPの推移（2016~2023年）



注:2016年は実績、2017~2023年は予測。

資料:「World Economic Outlook Database, April 2018」(IMF)より作成

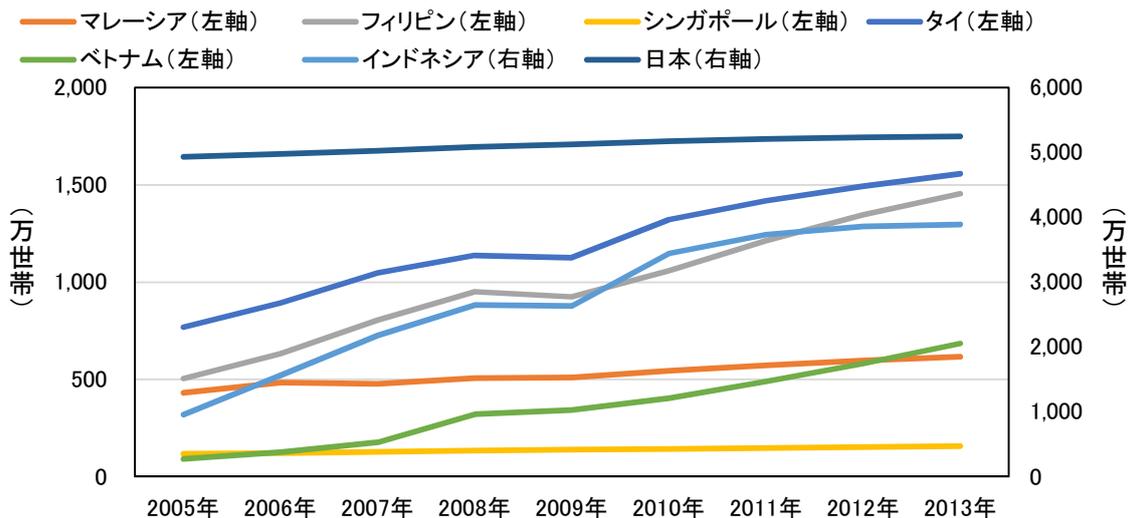
iii) 中高所得層の世帯数

- ASEAN6 か国において世帯所得が 5,000 ドル（約 57 万円）以上の中高所得層は、2005 年の 2,867 万世帯から 2013 年には 8,354 万世帯と 3.2 倍に増加している（図表 1-3）。ASEAN6 か国の中でも、人口規模が最大のインドネシアでは、中高所得層が 2005 年から 2013 年にかけて 4.1 倍と大幅に増加しており、市場が急速に拡大していると考えられる。

（中高所得層の世帯数の順位（6 国・2013 年））

- －第 1 位：インドネシア（3,888 万世帯）
- －第 2 位：タイ（1,557 万世帯）
- －第 3 位：フィリピン（1,453 万世帯）
- －第 4 位：ベトナム（685 万世帯）
- －第 5 位：マレーシア（616 万世帯）
- －第 6 位：シンガポール（156 万世帯）

図表 1-3 ASEAN6 か国の中高所得層の世帯数の推移（2005～2013 年）



資料:「World Consumer Lifestyles Databook 2014」(Euromonitor International)より作成

iv) 冷蔵庫・電子レンジの世帯普及率

- 家庭において冷蔵・冷凍食品の利用に必要な冷蔵庫・電子レンジの世帯普及率は、2005～2013 年にかけて ASEAN6 か国では上昇しており、2013 年にはそれぞれの平均が 69.7%・27.7%となっている（図表 1-4）。ASEAN では冷蔵庫の世帯普及が進んでおり、1 人当たり GDP が上位のシンガポール・マレーシア・タイでは 2013 年の世帯普及率が 9 割を上回っている。

（冷蔵庫の世帯普及率の順位（6 国・2013 年））

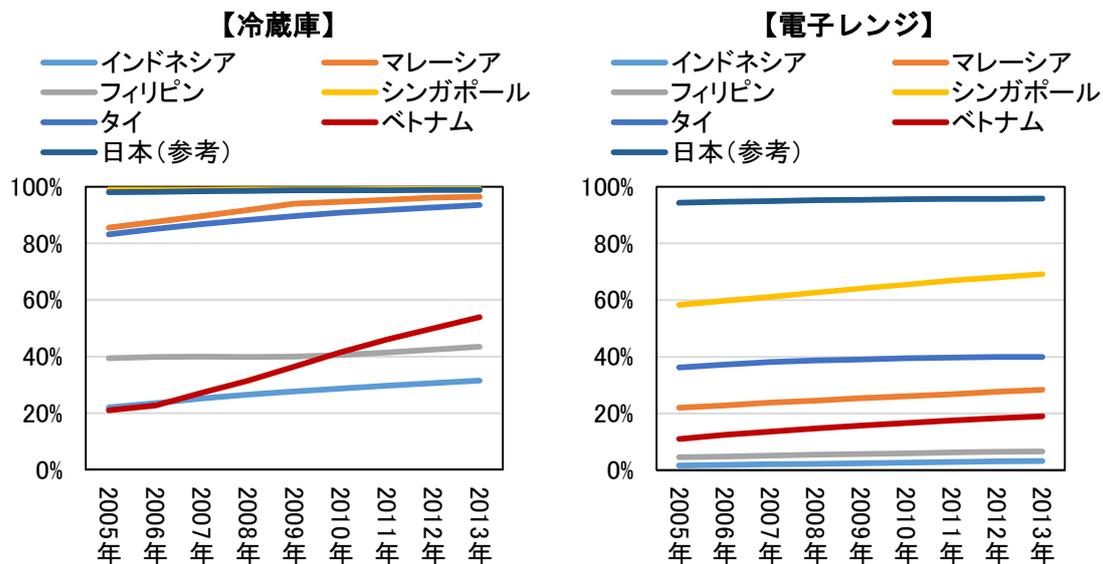
- －第 1 位：シンガポール（99.2%）
- －第 2 位：マレーシア（96.5%）
- －第 3 位：タイ（93.5%）

- 第4位：ベトナム (53.9%)
- 第5位：フィリピン (43.5%)
- 第6位：インドネシア (31.5%)

(電子レンジの世帯普及率の順位 (6国・2013年))

- 第1位：シンガポール (69.2%)
- 第2位：タイ (40.0%)
- 第3位：マレーシア (28.3%)
- 第4位：ベトナム (19.0%)
- 第5位：フィリピン (6.6%)
- 第6位：インドネシア (3.2%)

図表 1-4 ASEAN6 各国における冷蔵庫・電子レンジの世帯普及率の推移 (2005~2013年)



資料:「World Consumer Lifestyles Databook 2014」(Euromonitor International)より作成

v) 冷蔵・冷凍食品の消費額

- ASEANにおける冷蔵・冷凍食品の消費額は、所得水準の向上を背景に急成長しており、とりわけ、インドネシアは2020年にはタイとフィリピンを抜き、ASEAN最大市場への成長が見込まれ、ベトナムもフィリピンを抜き、タイに次ぐ第3位の市場となる見通しである。(図表 1-5)

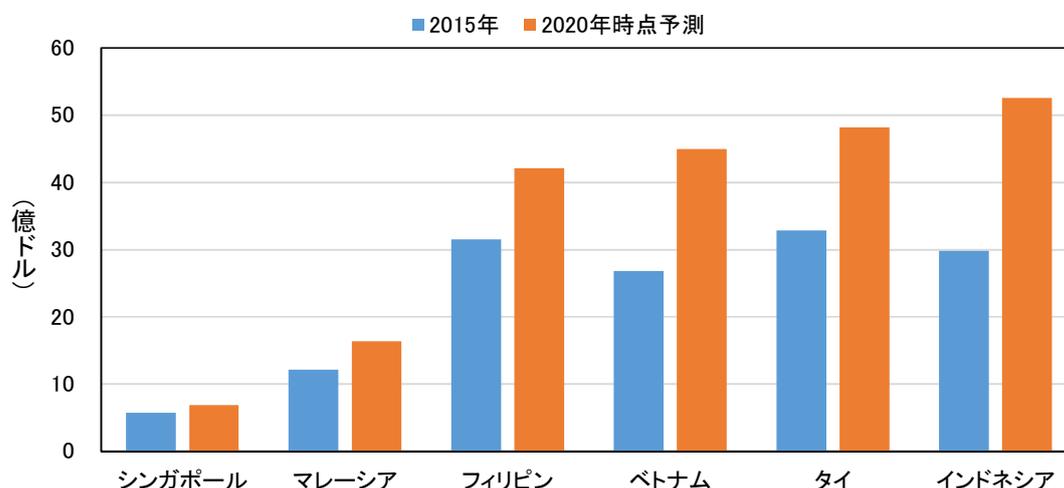
(冷蔵・冷凍食品の消費額の順位 (6国・2015年))

- 第1位：タイ (33億ドル (約3,729億円))
- 第2位：フィリピン (32億ドル (約3,616億円))
- 第3位：インドネシア (30億ドル (約3,390億円))
- 第4位：ベトナム (27億ドル (約3,051億円))

－第5位：マレーシア（12億ドル（約1,356億円））

－第6位：シンガポール（6億ドル（約678億円））

図表 1-5 ASEAN6 各国の冷蔵・冷凍食品の消費額
【乳製品、アイスクリーム、冷凍加工食品、冷蔵加工食品の消費額】



資料：みずほ銀行産業調査部より作成

vi) モダントレード率

- 経済成長が続く ASEAN の流通チャンネルには、冷蔵・冷凍食品など温度管理が必要な食品を取り扱い、温度管理が可能なコンビニエンスストアや量販店、百貨店等の「近代式商店」と、これまでの食習慣に合うが、温度管理が十分にできない零細な小売店や公設市場等の「伝統的商店」が混在している。2015年の ASEAN6 各国の流通チャンネルのシェア（モダントレード率）は、シンガポール・タイ・フィリピンでは「近代式商店」が50%を上回っており、「近代式商店」が主要な流通チャンネルとなっていると考えられる（図表 1-6）。

（近代式商店のシェアの順位（6国・2015年））

－第1位：シンガポール（82.3%）

－第2位：タイ（61.5%）

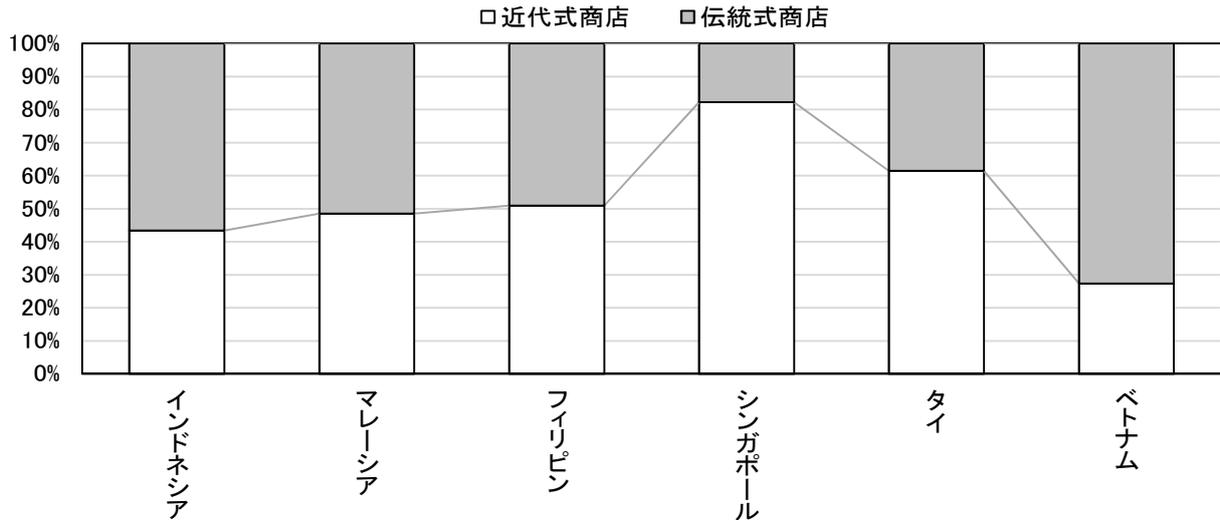
－第3位：フィリピン（50.9%）

－第4位：マレーシア（48.5%）

－第5位：インドネシア（43.4%）

－第6位：ベトナム（27.4%）

図表 1-6 ASEAN6 各国のモダントレード率 (2015 年)



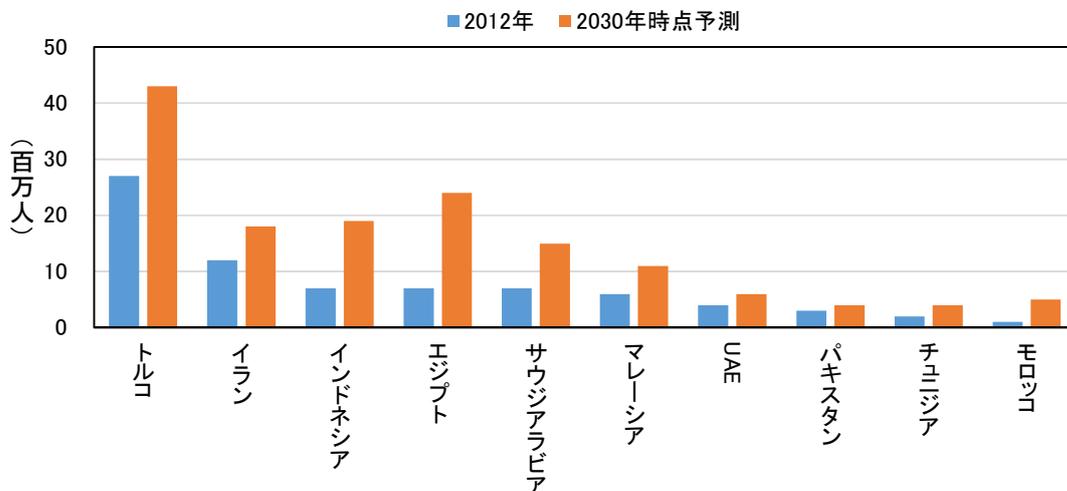
注: 近代式商店と伝統的商店の販売額から算出。

資料: 「アセアン諸国における食品市場調査 2015」(富士経済)より作成

vii) ハラル需要

- 世界人口の 4 分の 1 を占めるムスリムは、2016 年時点で人口約 19 億人となり、2050 年には世界人口の 3 分の 1 になると見込まれている。また、ASEAN を見てみても、地域全体の人口 6 億人のうちムスリム人口が約 4 割といわれ、このうち大部分を占めるインドネシア及びマレーシアにおいては高所得層人口 (注) の増加が見込まれ、ASEAN におけるハラル需要が一層高まることが想定される (図表 1-7)。また、マレーシアは国家主導でハラル認証制度 (Malaysian Standard (MS) 1500) の成文化及び国策としてハラル・ハブ化を目指しており、中東へのハラル食品輸出モデルを策定している。一方、日本国内市場においては、2020 年の東京オリンピック開催に向けて、訪日イスラム教徒は 2016 年の約 2 倍の 140 万人に達すると見込まれ、インバウンドのハラル需要開拓にも期待できる。

図表 1-7 イスラム諸国における高所得層人口 (2012 年)



資料: 農林水産省「平成 25 年度輸出拡大推進委託事業のうち国別マーケティング事業」より作成

注: 高所得層は購買力平価ベース年一人当たり GDP15,000US ドル以上と定義 (参考: インドネシアのジャカルタにおける平均月収は約 300US ドル)

(Ⅱ) 都市レベル

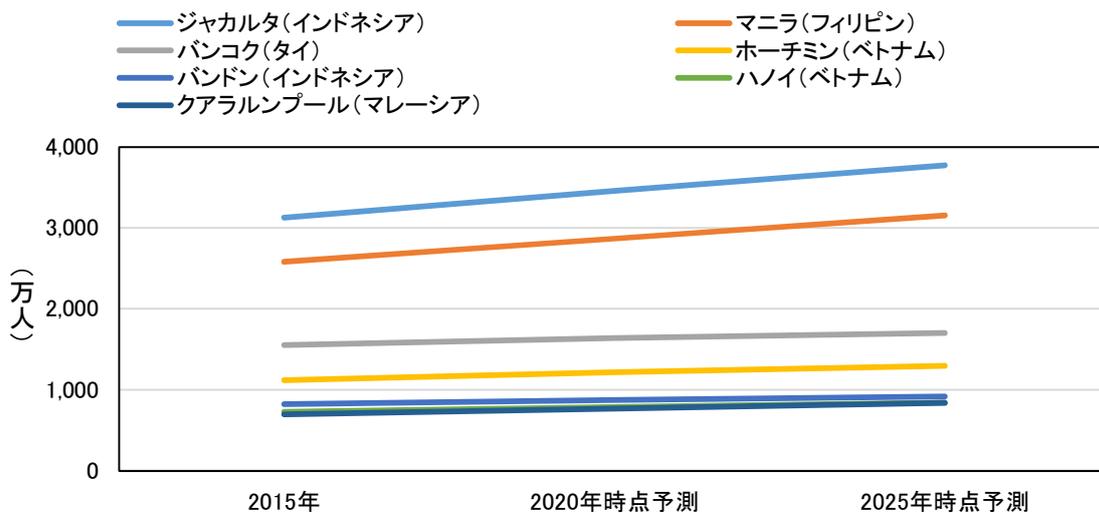
i) 都市人口

- ASEAN の都市の特徴として、大都市圏の住民比率が非常に高いことが挙げられ、また ASEAN には 100 万人以上の都市圏が 29 存在する。上位都市圏では、ASEAN 内第 1 位がインドネシアのジャカルタ、第 2 位がフィリピンのマニラ、第 3 位にタイのバンコクが続く。(図表 1-8)。

(2015 年の上位都市の人口の順位 (7 都市) と 2025 年にかけての増加率)

- ー第 1 位：ジャカルタ (インドネシア) (3,129 万人・1.9%)
- ー第 2 位：マニラ (フィリピン) (2,580 万人・2.0%)
- ー第 3 位：バンコク (タイ) (1,550 万人・0.9%)
- ー第 4 位：ホーチミン (ベトナム) (1,117 万人・1.5%)
- ー第 5 位：バンドン (インドネシア) (824 万人・1.1%)
- ー第 6 位：ハノイ (ベトナム) (729 万人・1.5%)
- ー第 7 位：クアラルンプール (マレーシア) (698 万人・1.8%)

図表 1-8 ASEAN の都市人口の推移 (2015~2025 年)



資料：JETRO「拡大する ASEAN 市場へのサービス業進出」より作成

ii) 1 人当たり GDP

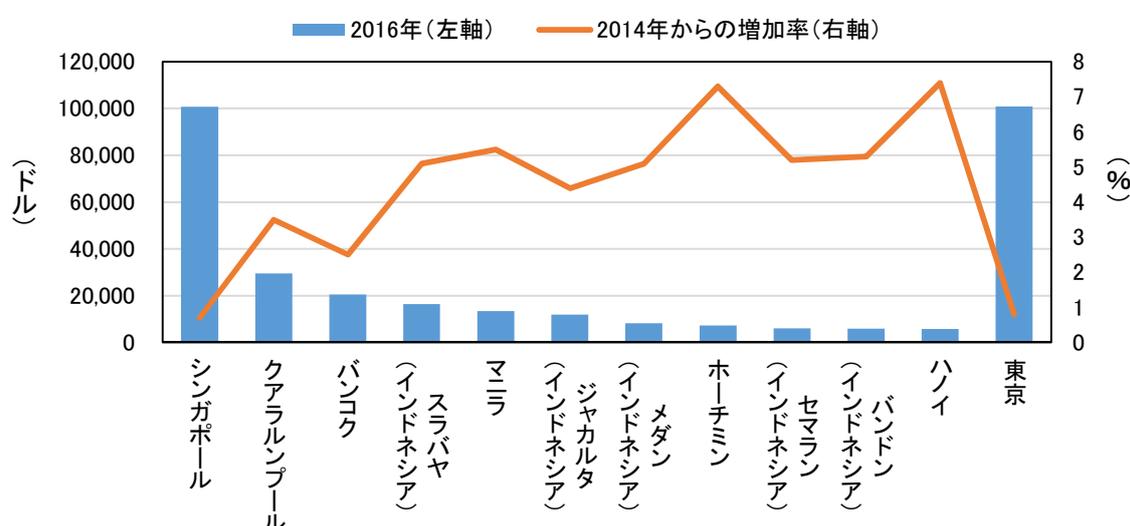
- 人口や産業が集積する都市部は生産性が向上し、1 人当たり GDP が全国平均よりも高くなる傾向がある。ASEAN の主要 11 都市における 1 人当たり GDP は、全国平均が高い国ほど高くなる傾向がある (図表 1-9)。また、ASEAN の主要 11 都市における 1 人当たり GDP の 2014~2016 年の増加率の平均は 4.7% で、インドネシア・フィリピン・ベトナムの主要都市の増加率は上回っており、ベトナムのホーチミン (7.3%)・ハノイ (7.4%) の増加率は特に高くなっている。

(ASEAN の主要都市の 1 人当たり GDP の順位 (11 都市・2016 年)・2014 年からの増加率)

- ー第 1 位：シンガポール (100,700 ドル (約 1,138 万円)・0.7%)

- 第2位：クアラルンプール（マレーシア）（29,571 ドル（約 334 万円）・ 3.5%）
- 第3位：バンコク（タイ）（20,500 ドル（約 232 万円）・ 2.5%）
- 第4位：スラバヤ（インドネシア）（16,486 ドル（約 186 万円）・ 5.1%）
- 第5位：マニラ（フィリピン）（13,427 ドル（約 152 万円）・ 5.5%）
- 第6位：ジャカルタ（インドネシア）（11,864 ドル（約 134 万円）・ 4.4%）
- 第7位：メダン（インドネシア）（8,243 ドル（約 93 万円）・ 5.1%）
- 第8位：ホーチミン（ベトナム）（7,349 ドル（約 83 万円）・ 7.3%）
- 第9位：セマラン（インドネシア）（6,069 ドル（約 69 万円）・ 5.2%）
- 第10位：バンドン（インドネシア）（5,960 ドル（約 67 万円）・ 5.3%）
- 第11位：ハノイ（ベトナム）（5,805 ドル（約 66 万円）・ 7.4%）

図表 1-9 ASEAN 主要 11 都市の 2016 年の 1 人当たり GDP と 2014 年からの増加率（2016 年）



資料:「Global Metro Monitor 2018」(ブルッキングス研究所)より作成

(2) ASEAN 主要都市におけるコールドチェーン物流のビジネス環境

i) 物流効率化度

- 世界銀行は世界 160 か国の物流効率化度を測定しており、2018 年の物流効率化度は 160 か国を対象として、物流を「通関」や「インフラ」、「国際輸送」、「品質と競争力」、「追跡」、「適時制」の分野に分けてそれぞれ 1~5 点で評価し、各分野の平均点を「総合」として公表している。ASEAN の 2018 年の物流効率化度の平均スコアは、「総合」が 3.02 であり、「適時性」(3.40)・「追跡」(3.09) は総合を上回って、これらは相対的に優れていると考えられる (図表 1-10)。しかし、ASEAN の 2018 年の物流効率化度で、「インフラ」は 2.80 と低くなっており、冷蔵冷凍倉庫などコールドチェーン物流に関するインフラの整備が遅れていることが伺える。

(ASEAN の物流効率化度の「総合」スコア (2018 年))

- 第1位：シンガポール (4.00)

- 第2位：タイ (3.41)
- 第3位：ベトナム (3.27)
- 第4位：マレーシア (3.22)
- 第5位：インドネシア (3.15)
- 第6位：フィリピン (2.90)
- 第7位：ブルネイ (2.71)
- 第8位：ラオス (2.70)
- 第9位：カンボジア (2.58)
- 第10位：ミャンマー (2.30)

図表 1-10 ASEAN の物流効率化度 (2018 年)

	総合			通関			インフラ			国際輸送		
	スコア	世界順位	ASEAN順位									
シンガポール	4.00	7	1	3.89	6	1	4.06	6	1	3.58	15	1
タイ	3.41	32	2	3.14	36	2	3.14	41	3	3.46	25	2
ベトナム	3.27	39	3	2.95	41	3	3.01	47	4	3.16	49	6
マレーシア	3.22	41	4	2.90	43	4	3.15	40	2	3.35	32	3
インドネシア	3.15	46	5	2.67	62	5	2.90	54	5	3.23	42	5
フィリピン	2.90	60	6	2.53	85	8	2.73	67	6	3.29	37	4
ブルネイ	2.71	80	7	2.62	73	6	2.46	89	7	2.51	113	9
ラオス	2.70	82	8	2.61	74	7	2.44	91	8	2.72	85	8
カンボジア	2.58	98	9	2.37	109	9	2.14	130	9	2.79	71	7
ミャンマー	2.30	137	10	2.17	131	10	1.99	143	10	2.20	144	10
日本(参考)	4.03	5	—	3.99	3	—	4.25	2	—	3.59	14	—

	品質と競争力			追跡			適時性		
	スコア	世界順位	ASEAN順位	スコア	世界順位	ASEAN順位	スコア	世界順位	ASEAN順位
シンガポール	4.10	3	1	4.08	8	1	4.32	6	1
タイ	3.41	32	2	3.47	33	2	3.81	28	2
ベトナム	3.40	33	3	3.45	34	3	3.67	40	3
マレーシア	3.30	36	4	3.15	47	5	3.46	53	5
インドネシア	3.10	44	5	3.30	39	4	3.67	41	4
フィリピン	2.78	69	6	3.06	57	6	2.98	100	8
ブルネイ	2.71	77	7	2.75	88	8	3.17	80	6
ラオス	2.65	83	8	2.91	69	7	2.84	117	10
カンボジア	2.41	111	9	2.52	111	9	3.16	84	7
ミャンマー	2.28	128	10	2.20	143	10	2.91	108	9
日本(参考)	4.09	4	—	4.05	10	—	4.25	10	—

資料:「Full LPI Dataset」(世界銀行)より作成

ii) 外資規制や業規制

- ASEAN の物流事業では、カンボジア・シンガポールでは外資の出資比率 100%が認められているが、その他の国では、物流事業別における外資出資比率が過半数以下となっている（図表 1-11）。

図表 1-11 ASEAN における物流事業での外資規制

	カンボジア	インドネシア*2	ラオス	マレーシア	ミャンマー	フィリピン*1	シンガポール	タイ	ベトナム
国際 (実運送)	100%	49%以下	49%以下 (国内トラック輸送のみ 100%との情報あり)	海運: 不明(70%以下との情報あり) 空運: 不明(100%との情報あり) 陸運: 49%以下	不明 (一部 80%以下との情報あり)	100%	100%	50%未満	海運: 100% 空運: 49%以下 (100%との情報あり) 陸運: 51%以下
国内 (実運送)						40%以下			海運: 49%以下 空運: 49%以下 陸運: 51%以下 (100%との情報あり) ※国内エクスプレス(書類含む)は 100%可能、チャーターやコンテナドレージなどのトラック輸送は 51%以下
利用運送		67%以下 (倉庫業等との兼業不可)		49%以下 (マレーシア投資庁より許可を得た場合 100%)	不明	原則 40%以下 *資本金 20 万 \$ 以上の場合は 100%			100%(99%以下との情報あり)
倉庫業		67%以下 冷凍冷蔵は 100%		一般、私設保税倉庫は 100% 一般保税倉庫は 70%以下	不明(60%以下との情報あり)	(国際利用運送は 100%との情報あり)			50%未満 (Distribution center に該当すれば 100%)

注:*1 インドネシアの運輸大臣規則改正により、外資のフォワーダー事業者に義務づけられる最低払込資本金の額が 100 万 USD に引き上げ。

*2 役員の国籍を制限しているとの情報あり。

資料:「アセアン各国における物流事業に関する基礎調査」(2014 年3月)をもとに、事業者への聞き取り、各国政府ホームページ等を参考に国土交通省にて更新

iii) 宅配便サービス市場

- ASEAN の物流市場規模は、経済成長と人口増加を背景に、年平均 10%超（2017 年～2022 年）の高い成長が期待されており、特に宅配便サービス市場は、EC 市場の拡大により、年平均 20%近い成長が見込まれる（図表 1-12）。また、ASEAN 主要都市部での冷凍・冷蔵食品の消費拡大に伴うワールドチェーン物流への潜在的な需要の高まりやスマートフォンの普及により小口保冷輸送サービスの需要が高まりを見せており、我が国物流事業者は、シンガポール、マレーシア（クアラルンプール等）、タイ（バンコク）、ベトナム（ホーチミン）において小口保冷輸送サービスを実施している。

（宅配便サービスの市場規模の順位（6 か国（2013 年））

- －第 1 位：インドネシア（40 億ドル（約 4,520 億円））
- －第 2 位：タイ（17 億ドル（約 1,921 億円））
- －第 3 位：マレーシア（14 億ドル（約 1,582 億円））
- －第 4 位：フィリピン（12 億ドル（約 1,356 億円））
- －第 5 位：シンガポール（7 億ドル（約 791 億円））
- －第 6 位：ベトナム（6 億ドル（約 678 億円））

図表 1-12 ASEAN 諸国の宅配便サービスの市場規模（2013 年）

（単位：億ドル）

国	2013 年	2017 年時点予測	2022 年時点予測	2017-22 増加率
インドネシア	40	76	191	20.2%
タイ	17	29	56	13.9%
マレーシア	14	27	67	19.8%
フィリピン	12	24	57	18.8%
シンガポール	7	09	14	9.2%
ベトナム	6	10	22	16.7%

資料：みずほ銀行産業調査部より

(3) 我が国との関係

i) 日本から ASEAN への農林水産物の輸出額

- 日本から ASEAN への農林水産物の輸出額を見ると、2017 年が 1,174.1 億円であり、主要な輸出先であるベトナム・タイ・シンガポールへの合計が 910.2 億円と 77.5%を占めている（図表 1-13）。

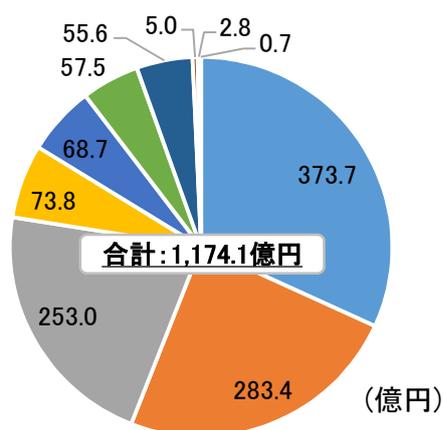
（日本から ASEAN への農林水産物の輸出額の順位（2017 年））

- －第 1 位：ベトナム（373.7 億円）
- －第 2 位：タイ（283.4 億円）
- －第 3 位：シンガポール（253.0 億円）
- －第 4 位：マレーシア（73.8 億円）
- －第 5 位：フィリピン（68.7 億円）

- －第6位：カンボジア（57.5 億円）
- －第7位：インドネシア（55.6 億円）
- －第8位：ラオス（5.0 億円）
- －第9位：ミャンマー（2.8 億円）
- －第10位：ブルネイ（0.7 億円）

図表 1-13 日本から ASEAN への農林水産物の輸出額（2017 年）

- ベトナム
- タイ
- シンガポール
- マレーシア
- フィリピン
- カンボジア
- インドネシア
- ラオス
- ミャンマー
- ブルネイ



注：農林水産物は、動物及び動物性生産品（含魚介類）と植物性生産品、動植物油脂、調製食料品、飲料、アルコール、たばこ等。

資料：「財務省貿易統計」より作成

ii) ASEAN からの日本への農林水産物の輸入額

- ASEAN において我が国物流事業者は現地で生産される食品の日本への輸出に関する保管・輸送を担っており、ASEAN から日本への農林水産物の輸入額は、我が国物流事業者にとってビジネスチャンスの大きさを判断する情報の1つである。2017年のASEANから日本への農林水産物の輸入額は1兆1,097億円であり、タイが4,741.9億円と最も多く、次いでベトナム（1,774.2億円）、インドネシア（1,516.8億円）の順になっている（図表 1-14）。

（ASEAN からの日本への農林水産物の輸入額の順位（2017 年））

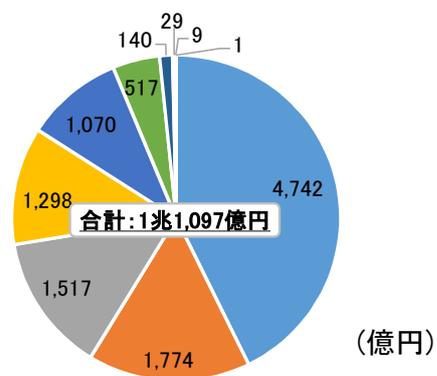
- －第1位：タイ（4,741.9 億円）
- －第2位：ベトナム（1,774.2 億円）
- －第3位：インドネシア（1,516.8 億円）
- －第4位：フィリピン（1,298.2 億円）
- －第5位：マレーシア（1,070.5 億円）
- －第6位：シンガポール（516.7 億円）
- －第7位：ミャンマー（139.0 億円）
- －第8位：ラオス（29.5 億円）

－第9位：カンボジア（8.8億円）

－第10位：ブルネイ（0.8億円）

図表 1-14 ASEAN から日本への農林水産物の輸入額（2017年）

■ タイ ■ ベトナム ■ インドネシア ■ フィリピン ■ マレーシア
■ シンガポール ■ ミャンマー ■ ラオス ■ カンボジア ■ ブルネイ



(億円)

注：農林水産物は、動物及び動物性生産品（含魚介類）と植物性生産品、動植物油脂、調製食料品、飲料、アルコール、たばこ等。

資料：「財務省貿易統計」より作成

3. 重点国の選定

●ASEAN におけるコールドチェーン物流を促進すべき国を『市場性』、『ビジネス環境』、『我が国との関係』の3つの観点で分析した結果、シンガポールを除いて（注1）、全項目の上位5位を多く占める対象国（注2）が**インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム**となり、ASEAN スマートコールドチェーンの実現に向けて取り組むべき重点国とする（図表1-15）。

注1：シンガポールは既にコールドチェーン物流が整備されていると考えられるため、重点国として取り上げない。

注2：黄色は、シンガポールを除く上位5位を表す。

図表1-15 コールドチェーン物流促進に関するASEANの分析結果と重点国の選定

分析項目		インドネシア	マレーシア	フィリピン	タイ	ベトナム	ブルネイ	カンボジア	ラオス	ミャンマー	シンガポール	
市場性	人口	2016年(実績)	第1位 2億5,871万人	第6位 3,163万人	第2位 1億3,224万人	第4位 6,898万人	第3位 9,269万人	第9位 42万人	第7位 1,578万人	第8位 659万人	第5位 5,225万人	- 561万人
		2023年(予測)	第1位 2億8,259万人	第6位 3,459万人	第2位 1億1,859万人	第4位 6,938万人	第3位 9,908万人	第9位 46万人	第7位 1,751万人	第8位 728万人	第5位 5,436万人	- 591万人
	1人当たりGDP	2016年(実績)	第4位 3,604ドル	第2位 9,374ドル	第5位 2,953ドル	第3位 5,970ドル	第7位 2,172ドル	第1位 26,935ドル	第8位 1,278ドル	第6位 2,417ドル	第9位 1,210ドル	- 55,241ドル
		2023年(予測)	第4位 5,480ドル	第2位 16,421ドル	第5位 4,410ドル	第3位 9,368ドル	第7位 3,773ドル	第1位 40,790ドル	第8位 2,123ドル	第6位 3,890ドル	第9位 2,061ドル	- 74,105ドル
	中高所得層の世帯数	2013年(実績)	第1位 3,888万世帯	第2位 616万世帯	第3位 1,453万世帯	第2位 1,557万世帯	第4位 685万世帯	-	-	-	-	- 156万世帯
	冷蔵庫の世帯普及率	2013年(実績)	第5位 31.5%	第1位 96.5%	第4位 43.5%	第2位 93.5%	第3位 53.9%	-	-	-	-	- 99.2%
	電子レンジの世帯普及率	2013年(実績)	第5位 3.2%	第2位 28.3%	第4位 6.6%	第1位 40.0%	第3位 19.0%	-	-	-	-	- 69.2%
	冷蔵・冷凍食品の消費額	2015年(実績)	第3位 30億ドル	第5位 12億ドル	第2位 32億ドル	第1位 33億ドル	第4位 27億ドル	-	-	-	-	- 6億ドル
		2022年(予測)	第1位 53億ドル	第5位 16億ドル	第4位 42億ドル	第2位 48億ドル	第3位 45億ドル	-	-	-	-	- 7億ドル
	モダントレード率	2015年(実績)	第4位 43.4%	第3位 48.5%	第2位 50.9%	第1位 61.5%	第5位 27.4%	-	-	-	-	- 82.3%
都市レベル	主要都市 第1位の人口	2015年(実績)	ジャカルタ (3,129万人)	クアラルンプール (698万人)	マニラ(2,580万人)	バンコク(1,550万人)	ホーチミン(1,117万人)	-	-	-	-	-
		2025年(予測)	ジャカルタ (3,774万人)	クアラルンプール (838万人)	マニラ(3,157万人)	バンコク(1,703万人)	ホーチミン(1,295万人)	-	-	-	-	-
	主要都市 第1位の1人当たりGDP	2016年(実績)	スラバヤ (16,486ドル)	クアラルンプール (29,571ドル)	マニラ(13,427ドル)	バンコク(20,500ドル)	ホーチミン(7,349ドル)	-	-	-	-	- シンガポール (100,700ドル)
ビジネス環境	物流効率化度	2018年(実績)	第4位 3.15	第3位 3.22	第5位 2.90	第1位 3.41	第2位 3.27	第6位 2.71	第8位 2.58	第7位 2.70	第9位 2.30	- 4.00
	宅配便サービスの市場規模	2013年(実績)	第1位 40億ドル	第3位 14億ドル	第4位 12億ドル	第2位 17億ドル	第5位 6億ドル	-	-	-	-	- 7億ドル
		2022年(予測)	第1位 191億ドル	第2位 67億ドル	第3位 57億ドル	第4位 56億ドル	第5位 22億ドル	-	-	-	-	- 14億ドル
我が国との関係	日本からの食品の輸出額	2017年(実績)	第6位 55.6億円	第2位 73.8億円	第4位 68.7億円	第2位 283.4億円	第1位 373.7億円	第9位 0.7億円	第5位 57.5億円	第7位 5.0億円	第8位 2.8億円	- 253.0億円
	ASEANからの食品の輸入額	2017年(実績)	第3位 1,516.8億円	第5位 1,070.5億円	第4位 1,298.2億円	第1位 4,741.9億円	第2位 1,774.2億円	第9位 0.8億円	第8位 8.8億円	第7位 29.5億円	第6位 139.0億円	- 516.7億円